

～市民がつくる～
三木市男女共同参画センター情報誌

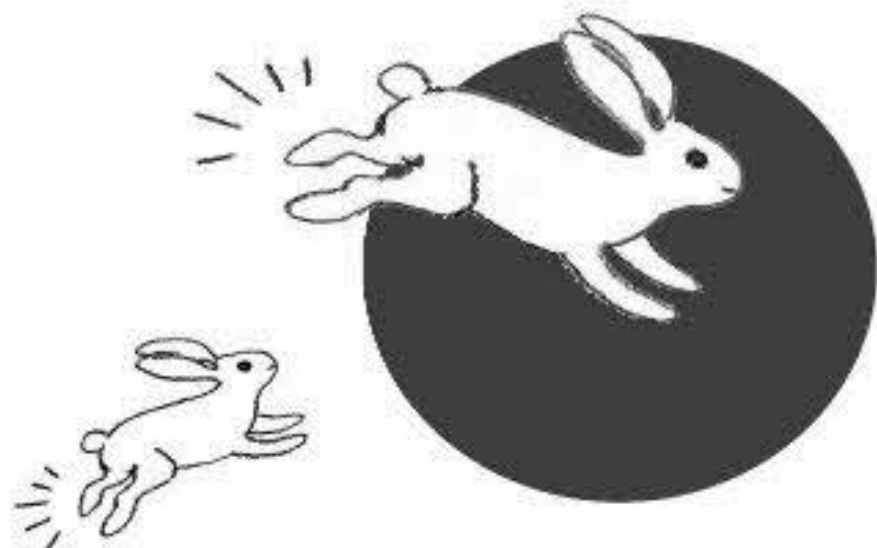
こらぼーよ

こらぼーよとは
Collaboration
コラボレーション
(共同・協働)と
～しようよの組合せ

みんなで
男女共同参画社会実現
に向けて活動しようよ

第63号 2023・冬

冬号のテーマは
「相手のしんどさを理解する」



● 主夫日記 番外編

「考えなくてもいい」特権

当たり前前に享受している特権に気付く

● 男子はつらいよ！女子もつらいよ！

● イマドキの性教育、さらに前進！男子にも月経教育♪

● みきウイメンズすてっぷあつぷ塾フォーラムのお知らせ



「考えなくてもいい」特権 当たり前享受着している特権に気付く

こんにちはアラ還主夫のフミヒロです。

いつも主夫日記にお付き合いありがとうございます。

先日何気なくネットの記事を読んでいると、「男性には考えなくてもいい特権がある」という内容が目に残りました。男性優位な社会構造の中で、男性には有形無形のさまざまな特権があるのだとか。今回の主夫日記は「番外編」として男性の特権を取り上げます。

私たちの暮らす社会の制度やインフラは主に男性が中心となって作られてきました。そのため、多くの男性は大きなストレスを感じることなく、公共交通機関や街なかの道路を利用したり、家庭や社会での役割を担ったりすることができています。

一方、ベビーカーや車いすなどを利用される方は移動の妨げになる段差がないか事前に考えたり、女性は公共交通機関を利用する際に性被害にあわないよう気を遣ったりする必要があります。

こういった、「何も考えなくても不自由を感じないこと」が多くの男性の特権なんだそうです。

このような特権は、欧米においての白人と黒人、日本人と日本で暮らす外国人、異性愛者と同性愛者の間でも同様で、それぞれのグループで多数を占める白人、日本人、異性愛者の人たちに「考えなくてもいい特権」があるのです。

では、不自由を感じている当事者が解決するために行動すれば良いのでは？と思うかも知れませんが、例えば女性が不自由を訴えても、多くの男性は普段不自由と感じていないので、どこが不自由なのかすぐには理解できません。また、強く訴えても「権利ばかり主張する」と受け止められかねません。大切なことは特権がある側が不自由に気付くことなんだそうです。

この特権、私自身に置き換えて考えてみたら、会社員時代に女性の役割とされていたことをいろいろと妻に押し付けていたかも…と。ごめんね。

「考えなくてもいい特権」、当たり前だと思っている意識の中に潜んでいるようです。自分の周りから少しずつ変えていけたら良いなと思います。

(編集委員：I)





男子はつらいよ！
女子もつらいよ！



突然ですが皆さま、一度くらいは「今と違う性別で生まれていたら…」って、想像したことがあるのではないのでしょうか。

とはいえ、男性として生まれたら、出世や一家の大黒柱にならねばといったプレッシャーがありそうですし、女性として生まれたら、何かと「女の子だし」といった制限を受けたり、月経から始まって出産にまつわる苦勞など、また別のしんどさがありそうです。

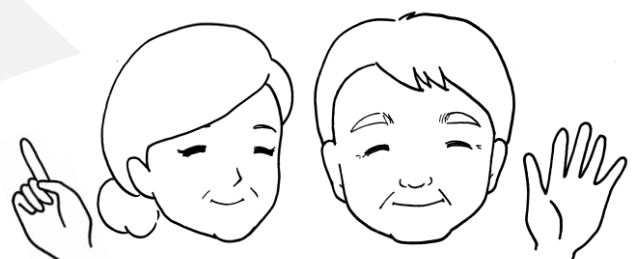
さて、この「プレッシャー」や「しんどさ」って、いったいどこから来るのでしょうか？

子ども達は、小さいころから親や周りの大人から様々な価値観をインストールされます。例えば男子であれば、より高い成績や良い進学先・就職先を期待されたり、逆に女子であれば、本人が高い教育を受けるため家を出たいと望んでも、家から通える範囲でというのが進学先の条件になったり。

大人、特に親は、わが子の幸せを願い、良かれと思って従来の価値観で子どもにあれこれアドバイスしがちです。ところが時代は、親世代の常識が通用しない新しい時代へと変化しています。

個人の幸福度に影響を与える要素として「自己決定が重要」という話を聞いたこともあります。性別にかかわらず、自分の思いや気持ちを大切に、誰かの価値観ではなく自分の判断で進学先、就職先、その後の人生を決められて、それが周囲からも認められ応援される。そんな風になれば、子ども達の「つらいよ」も、減ってくるのかもしれないね。

(編集委員 A)



イマドキの性教育、さらに前進！

男子にも月経教育♪



皆さま、学校での性教育というと、単なる精通や月経だけの教育だと思いませんか？

先日、市内のある小学校で5年生対象に行われた「からだの話」について、内容を教えていただきました。以前こちらの紙面でも男女一緒に学んでいることはご紹介しましたが、昨年からはさらに一歩進んで、女子だけに説明されていた生理用品の使い方についても、男女一緒に学んでいるのだそうです！

月経にまつわる女子の身体の辛さや、衣服を汚してしまうなどのトラブ

ルについて、また股間にボールなどが当たった場合に感じる男子の激しい苦痛など、男女一緒に説明を受け、お互いにしんどさを理解することで、同級生はもちろん家族への配慮の心も生まれるようです。子ども達自身からも「トラブルがあってもそれをからかったりせず、理解してもらえらなら安心」といった感想も。

こういった教育を機に、若い人には、何も知らずに相手を傷つけるのではなく、正確な知識を持って相手のしんどさを理解できる大人になってほしいですね。(編集委員 A)

みきウィメンズすてっぷあっぷ塾フォーラム

日時：令和5年2月25日(土) 14時～16時
場所：三木市立教育センター4階 大研修室
内容：パパママ応援講座

えのちゃんと考える自分らしさ～ランドセルの色&制服～

講師：榎本英樹さん
対象：子育て中の方、内容に関心のある方
費用：無料

申込二次元コード →



定員：40名(先着順)
申込・問い合わせ：男女共同参画センターこらぼ一よ(☎/FAX:89-2331)
電話・FAX・窓口・二次元コードからお申込みください。
託児：3か月～未就学児(10名/〆切2月17日)

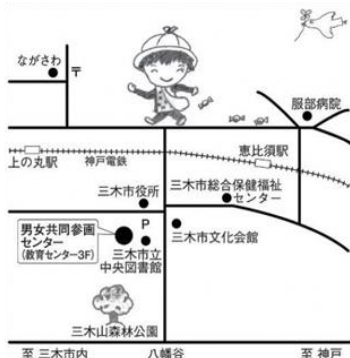


講師・コーディネーター
あそびとお話のデリバリー「ドコデモ」
榎本秀樹さん(えのちゃん)

三木市男女共同参画センター 愛称 “こらぼ一よ”

三木市福井 1933-12
三木市立教育センター 3階
TEL&FAX：0794-89-2331
開館日時：月曜～金曜 9時～17時
(※祝日を除く)

企画・編集：情報誌「こらぼ一よ」編集グループ
発行：三木市男女共同参画センター



こらぼ一よ 三木市

ホームページからも
ご覧いただけます

編集後記



戦争状態にない日常。水道から供給される安全な水。自分の中で当然と思っていたことが、実は感謝すべき状況であることが沢山あります。

ちょっと視点を変えてみたり、いろいろな人と触れ合う中での小さな気づきを他者への配慮につなぐことができればいいですね。(編集委員：G)